

「ルドルフ2世（神聖ローマ帝国皇帝）」 驚異の世界展

福岡市博物館 2017. 11. 03~12. 24 Bunkamura ザ・ミュージアム 2018. 01. 06~03. 11

佐川美術館（滋賀県守山市） 2018. 03. 21~05. 27

ハプスブルグ家の「ルドルフ2世」（1552~1612）は、プラハに宮廷を構えて神聖ローマ帝国皇帝として君臨し、稀代の収集家や芸術の庇護者として知られる。

特に、16世紀末~17世紀初頭には各地から優れた人物たちが集結し、芸術作品、優れた創作物、珍奇な自然物などが集められ『**脅威の部屋**』と呼ぶべき膨大な収集品が形成され、当時のヨーロッパ芸術の一大拠点となっていた。

本展では、「**ジュゼッペ・アルチンボルド**」（1526~1593）を始め、彼が愛好した芸術家たちの作品を中心に、占星術や錬金術にも強い関心を示した皇帝の特に魔術的とも言える魅力に満ちた創造と科学の世界を紹介するもので、“**究極の趣味人のワンダーランド**”として数多くの収集した作品を紹介している。



アルチンボルト《**ウェルトゥムヌスとしての皇帝ルドルフ2世像**》 1591年
画伯が晩年にイタリアに帰郷してから制作し、皇帝に送った怪しく謎めいた
「皇帝の人物像」作品で、果実と季節の移ろいを司る「**異色の肖像画**」を、四
季を掌握する力を持つ神として描きだした油彩・板の傑作である。（左側中央）

ヤン・ブリューゲル（父）《**陶器の花瓶に生けられた小さな花束**》 1607年頃
ルドルフ2世が愛した系譜に咲いた絢爛なる花卉画の世界を描いた作品。（右）
さらに、好奇心旺盛で収集された調度品としては、純金、銅、真鍮、鉄製な
どの《**象の形をしたからくり時計**》《**オウム貝の杯**》《**アストロラーベ**》《**蓋
付杯**》《**時計**》《**天文時計**》などの「小物の飾り物」が展示されている。